

お互いの夢・目標に向かって、自分を発見・発信することができる児童生徒の育成  
～自信をもって課題への思いや考えを自己表現する学習の展開を通して～

十島村立口之島小・中学校

### 1 研究のねらい

児童生徒の実態を踏まえて、「自己肯定感」の高揚と「自己表現力」「表現意欲」の育成に相関があると捉えた。その土台となる人権環境を整え、表現力・表現意欲を高める授業・生活づくりを実践していくことによって、児童生徒の「自己肯定感」「自己表現力」を高めることで、「お互いの夢・目標に向かって、自分を発見・発信することができる児童生徒の姿」の実現を目指し、研究に取り組んだ。

### 2 研究の概要

令和2年度から令和3年度の2か年は「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、児童生徒が「何を」学習するのか「何が」分かったのかを明確にする授業実践を行った。その中で「振り返り」の場を設定し、「振り返り」を生かした授業づくりに取り組んだ。

これまでの研究を通じた児童生徒の実態を踏まえ、令和4年度から令和5年度の2か年の研究として、児童生徒の「自己表現力」の育成を柱におき「めあて」「まとめ」「振り返り」の学習展開をしていく中で、児童生徒の主体的な表現と的確な意思表出を目指す研究を進めてきた。研究の推進を図るために、全職員による「一人一授業」の研究授業によって実証し、授業研究の中で、共通実践事項における成果や課題について協議し、授業づくりや授業改善に取り組んできた。

### 3 研究の内容

○ 児童・生徒が自分の思いや考え、意見を、自信をもって表現するための、各教科等での指導工夫と学習展開

- ・ 児童生徒の「自己肯定感」を高める授業づくり  
(児童生徒が「勇気」や「自信」をもって発言したり、「恥ずかしさ」を払拭して発表に挑戦したりすることができるようになるための手立てや雰囲気づくり)
- ・ 児童生徒の「表現」「技術」を高める授業づくり  
(語彙力を身に付けるための手立てや工夫)

○ 児童生徒の主体的な発表を支える学校教育環境や取組・実践

- ・ 互いを認め合う雰囲気・学級・学校づくり
- ・ 教師自身の子どもたちへの対応の仕方の工夫等

### 4 研究の実際

(1) 「自己表現力」の育成を踏まえた教育活動

ア 発表話型の工夫

「発表会や会話が輝く BASIC コミュワード」の全学級掲示  
→ 校種、学年段階に応じた基礎から応用への深化

イ チャレンジタイムの活用

毎週、金曜日の朝の時間に位置付け  
→ 「書く」ことへのチャレンジ

ウ 新聞への作品投稿チャレンジ

→ 掲載された喜びが表現活動への意欲喚起

エ 教科書巻末教材の活用 (各教科)

→ 常設掲示による表現語彙や方法とのふれあい



【 発表話型の掲示 】

## (2) 「自己肯定感」涵養をふまえた教育活動

- ア 小中別朝会等でのスピーチへの挑戦
  - 少人数の場からスタートするスピーチ経験
- イ 定期的なアンケート等の実施と全職員による情報共有・分析・対応
  - 分析等に基づく、望ましい人間関係・学校・学級環境の場づくり
- ウ 他者からのポジティブ評価
  - 相互によかったことや学びたいことを評価し合う「尊敬ポイント」と「いいね!のひとこと」カードの作成と相互交換
- エ 将来の夢・希望の掲示
  - 長期的な展望で自らの将来を照らす「夢・希望」カードの作成
- オ 誕生日給食の実施
  - 全員がかけがえのない大切な一員であることの共有



【 夢・希望カード 】

### 〈 研究の視点をふまえた授業実践のポイント 〉

#### (ア) 「自己肯定感」を高める授業のポイント

- 既習事項の確認  
学習の始まりにおける見通し
- 個別評価の場  
考える場と指導者のポジティブ評価
- 共感的受容  
表現する思いや考えを肯定的に聞いて受容する態度
- 成功体験  
「できた」「分かった」を実感できる学習
- 振り返り評価  
終末段階での自己・他者評価

#### (イ) 「自己表現力」を高める授業のポイント

- 学習雰囲気づくり  
自分を表出していると思える雰囲気
- 表現語彙  
基本表現語彙の活用
- 発問の工夫  
「何を」表現(回答)すればいいのかが分かる教師の発問
- 構造的板書・表示  
本時の振り返りができる板書の工夫
- 子供主体の学習  
リーダー・ガイド学習の場の活用

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

自他の長所を改めて理解することで「自己肯定感」の高まりが見られるようになった。そして、学習意欲の高まりにもつながってきている。自らの思いや考え、表現したいことを受容・理解される場を多く設定することで、表現意欲の向上にもつながり、児童生徒が自主的に表現活動に取り組む姿が見られた。

### (2) 課題

表現方法の手段において、「書くこと」に抵抗感があり、「表現意欲」が高まったものの、自分の思いを文章でうまく表現できない児童生徒がいる。これを踏まえ、今後も引き続き実践を続け、特に「書く力」に焦点をおいて検証し、手立ての更なる工夫を考える必要がある。それにより、「いいね!のひとこと」カード作成などにおいて、児童生徒が、より自分の思いを相手に伝えることができるようになり、本校が研究のねらいを踏まえて実践してきた教育活動がさらに充実したものになると考える。

## 6 今後の取組

- 自らの思いや考え方を文章として「書く」力を育成する。
- 「振り返り」を通して、児童・生徒が自分の学びを理解する授業の在り方を研究する。
- ICTの活用法を工夫して対話的な活動の充実を図る。